

## 職員の声

### 兵庫県立尼崎総合医療センター 薬剤部

尼崎総合医療センターは阪神地域の中核病院として、様々な分野の高度専門医療や救急医療を提供しています。また、災害時も機能し続ける災害拠点病院であり、災害派遣医療チーム(DMAT)の活動も行っています。今回は、当センターDMAT 及び DMAT における薬剤師の役割について紹介します。

#### ● DMAT とは

「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており、災害派遣医療チーム Disaster Medical Assistance Team の頭文字をとって「DMAT(ディーマツト)」と呼ばれています。医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね 48 時間以内)から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。



#### ● DMAT における薬剤師(業務調整員)の役割

DMAT の活動は現場活動、被災地の病院支援、患者搬送や本部活動など多岐にわたります。業務調整員は通信手段や移動手段の確立、医薬品や水、食料の確保をはじめ、情報収集や関係機関との調整、活動現場の環境整備などを通じて、情報と資源の管理を行います。



能登半島地震への DMAT 隊出動前の様子です。医師 1 名、看護師 2 名、業務調整員 2 名の構成で出動しました。



業務調整員として、情報の収集・整理を行っている様子です。災害現場では情報の管理が非常に重要です。

薬剤師はこれらの業務調整員としての活動に加え、医薬品の管理や医薬品情報提供も求められています。薬剤師として災害現場で専門性を発揮するために、平時から医薬品の選定など準備と訓練を行っています。



避難者の持参薬がきれいに仕分けされています。薬剤師として、避難者の常用薬の鑑別、不足薬の確認、内服タイミング毎の仕分けを行いました。

兵庫県立病院には 6 つの総合病院と 4 つの専門病院があります。それぞれの病院には特色があり、薬剤師としての専門性を活かして成長できる環境があります！皆さんも兵庫県職員の一員となり、私たちと一緒に県立病院で働いてみませんか！？

# 職員の声

## 兵庫県立西宮病院 薬剤部

兵庫県立西宮病院は、救命救急センター、腎移植センターなどを併設した総合的な診療機能を有し、高度先進医療を行う地域の中核病院です。薬剤師は、地域保険薬局と連携し、患者情報について薬剤情報提供書（トレーシングレポート）を活用し共有することで、適正で安全な薬物治療につなげられるよう取り組んでいます。

今回は、当院のトレーシングレポートにおける取り組みについてご紹介します。



### トレーシングレポート（診療情報提供書）



当院では、トレーシングレポートを活用した薬薬連携に取り組んでいます。他の医療機関から処方された薬剤と当院処方の薬剤との相互作用、コンプライアンスや残薬状況等の患者様のご自宅での服薬状況について調剤薬局の薬剤師が聞き取った内容の中で、情報提供が必要と考えられる内容を所定のトレーシングレポート様式を活用し、当院にFAXで送られてくる流れになっています。様式は①通常用に加え、②腎移植用、③化学療法用と3種類の様式を設けて

おり、②では免疫抑制剤との相互作用や副作用について書きやすいよう、予めチェックボックスを表示しています。③では化学療法における副作用の発現についてGrade別のチェックボックスを表示、また発現時期についても記載できるようにし、より詳細に情報共有ができるよう工夫しています。



兵庫県立病院は、専門病院から総合病院まで病院ごとに特色が異なるため、様々な経験を積み薬剤師として専門性を活かして成長できる環境となっています。みなさんも県職員の一員となり、私たちと一緒に県立病院で働いてみませんか？



©兵庫県 2007



©兵庫県 2007

# 職員の声

## 兵庫県立淡路医療センター 薬剤部

兵庫県立淡路医療センターは、淡路島で唯一の総合機能を有する公立病院で急性期医療・高度専門医療を提供しています。また、救急救命センターは、淡路島の2次・3次救急及び災害医療体制の拠点として稼働しています。

今回は、私が担当している救急病棟・ICUでの活動内容について紹介します。



### 救急病棟・ICUとは？

救急病棟 10床、ICU 6床の病床を有しています。救急病棟では、心筋梗塞や脳卒中、急性腹症、多発外傷などの急性期かつ重篤な疾患に対する治療を行っています。また、ICUでは主に術後管理を行っています。

### ～1日の流れ～

#### 13:30～ カンファレンス参加



医師・看護師・理学療法士・管理栄養士といった多職種が参加し、入院中の経過や問題点、一般病棟への転棟などについて話し合っています。また、入院前の生活状況を把握し治療方針に反映させています。さらに、毎週木曜日 14:00～は挿管中の患者をピックアップし、鎮静剤の効果や抜管時期、栄養管理などについてカンファレンスを行っています。

主に、薬剤師は鎮痛・鎮静薬や服薬アドヒアランスの評価、持参薬の再開について情報提供を行っています。

#### 14:00～ 患者の状態確認

処方薬剤の投与量や投与速度、配合変化等を確認しています。さらに呼吸状態、血圧・脈拍や腎機能などの循環動態、感染症、栄養、せん妄などの評価も行っています。

医師・看護師からの薬剤等に関する問い合わせには随時対応しています。

#### 15:45～ 麻薬返却

救急病棟・ICUで使用された麻薬の使用日時や使用量と残量が合致しているかを確認しています。

#### 16:00～ 薬品補充

鎮静薬や筋弛緩薬などの薬剤を補充しています。

#### 16:15～ 患者の状態確認

新規患者が入院された場合は、状態や治療方針を確認します。また、翌日以降の担当者への引継ぎを行います。

兵庫県立病院は総合病院と専門病院があり、  
薬剤師として様々な経験を積み成長することができます。  
みなさんもぜひ、私たちと一緒に県立病院で働いてみませんか？







## 職員の声

### 兵庫県立こども病院 薬剤部

兵庫県立こども病院薬剤部では、調剤業務・病棟業務をはじめ、チーム医療や患者向け教室にも積極的に参加し、患者さんの薬物治療に関わっています。

私は1年目の薬剤師です。今回は、私が参加した腎臓病教室における取り組みについて紹介します。

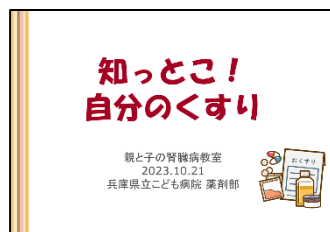


### 腎臓病教室

当院では毎年、外来患者さんに対し腎臓病教室を開催しています。昨年度は「ネフローゼ症候群」をテーマに教室が開催されました。教室では、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士が、それぞれ病態や合併症の説明、薬物療法、食事療法の講義を行います。薬剤師の講義では、治療薬の効能・効果や用法・用量、副作用、飲み合わせ等についてお話ししています。参加される患者さんは小学校低学年が多いので、クイズ形式にすることで興味を持って聞いてもらえるよう工夫しています。また、薬剤の名前だけでなく写真を示すことで、患者さん自身が使用されている薬剤の注意点を理解しやすいように心がけています。

講義以外にも、同じ疾患で治療を受けていた先輩家族からのお話や院内のバックヤードツアーも実施しています。バックヤードツアーでは検査部を訪問し、外来で受けている検査の流れを実際に見ていただきます。普段は入れない場所を見学できるため、貴重な体験になったと好評でした。

腎臓病教室では、普段関わりが少ない同じ疾患を抱える患者さん同士が交流できる貴重な場だと感じました。参加者からは、飲み合わせや他の治療薬について知ることができて良かった、といった意見が多く薬剤師としてやりがいを感じられる業務です。



現在、薬剤師の業務は多岐に渡ります。兵庫県には総合病院だけでなくこども病院のような専門病院もあり、薬剤師として専門性を発揮し成長できる環境が整っています。また様々な学会や研修に参加する機会があり、多くの人と交流し情報を共有することができます。みなさんも是非、私たちと一緒に県立病院で働いてみませんか？